

アフリカ豚コレラ (African Swine Fever) について

前半は、現在中国で猛威を振るっているASFについて、世界の状況を概観します。後半は、弊社にてベトナムでの現地情報が得られたため、公式発表情報に加えて簡単に共有したいと思います。

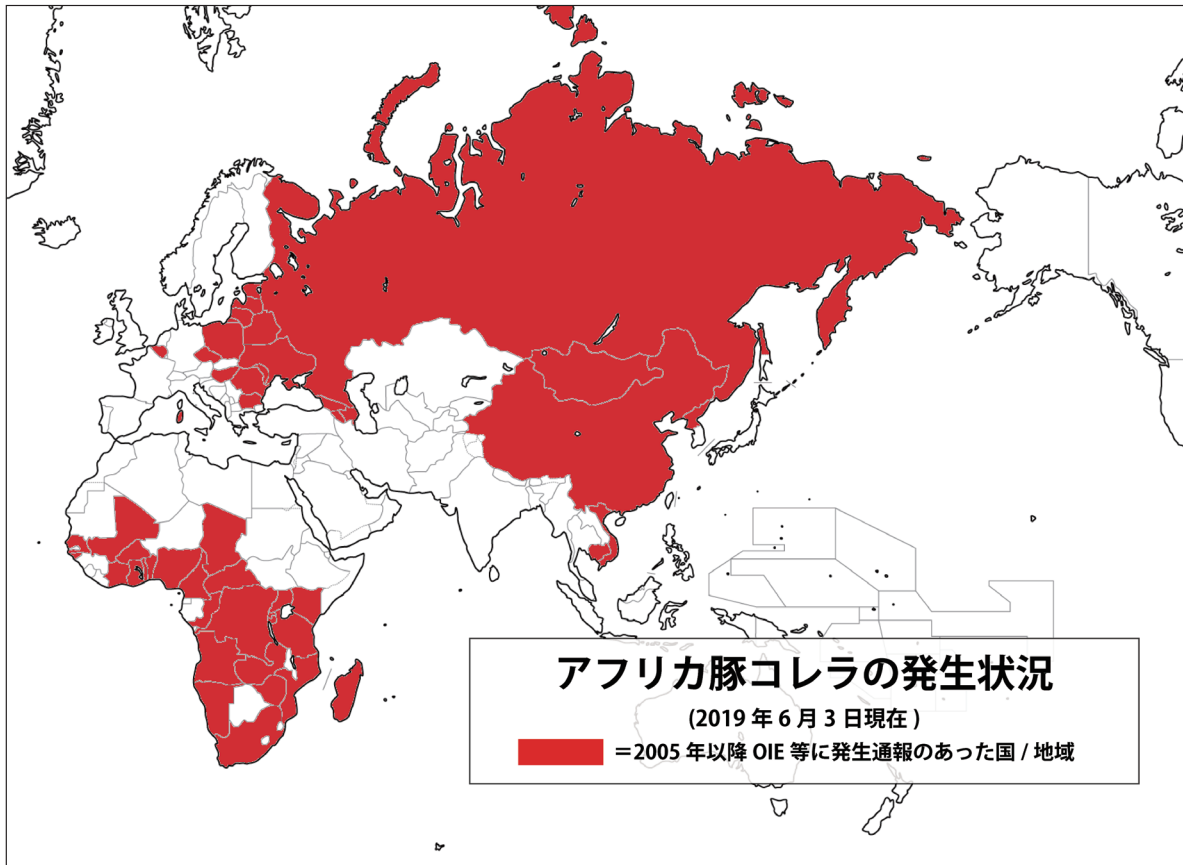
ASFは、アフリカ豚コレラウイルス (ASFV) が豚やいのししに感染する伝染病で、41℃以上の発熱や全身の出血性病変を特徴とする致死率の高い伝染病です。ASFVは直径200nmの大型の2本鎖DNAウイルスで、正20面体のウイルスカプシドを持ちます。2~3%の塩素系またはヨード系消毒薬により30分で死滅することが分かっており、70℃30分以上、80℃3分以上の加熱処理もウイルスを失活させます。本疾病は豚-豚間の接触感染だけでなく、ダニを介しての感染も知られています。臨床症状は豚コレラに類似しており、臨床所見のみでの類症鑑別は困難です。臨床症状は甚急性型から慢性型、不顕性型と様々なパターンを示し、致死率も数%から100%まで様々です。発生初期には甚急性型から急性型の症状が見られましたが、アフリカ以外での症状は亜急性型、慢性型および不顕性型へ移行する傾向があります。本疾病に有効なワクチンや治療法は無いため、発生した場合の養豚業界への影響は甚大であると考えられます。そのため、家畜伝染病予防法において「家畜伝染病」に指定されており、患畜・疑似患畜の速やかな届出とと殺が義務付けられています。なお、ASFは豚といのししには致死的な症状を引き起こしますが、人には感染しません。

世界での発生状況は、5月13日現在のOIEの発表によると、アフリカではアフリカ大陸南部を中心に29か国、アジアでは中国、モンゴル、ベトナム、カンボジア、香港の5か国、ヨーロッパではアルメニア、アゼルバイジャン、グルジア、イタリア(サルジニア島に限る)、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、リトアニア、ポーランド、ラトビア、エストニア、モルドバ、チェコ、ルーマニア、ハンガリー、ブルガリア、ベルギーの17か国になります。北米大陸および南米大陸の各国では確認されておらず、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、台湾、日本などの島国も現時点では清浄国です。

アジアでは2018年8月3日に中国で最初に発生が確認されました。2019年1月9日にモンゴルで、2月1日にはベトナムで、3月22日にはカンボジアで、5月10日には香港でASFの発生が確認されました。ただし、香港からの報告は中国との国境近くのと畜場での確認のみで農場での発生は確認されていません。また、現時点では日本の近隣である韓国および台湾での発生は確認されていませんでしたが、5月23日に北朝鮮においても発生が確認されました。

中国での感染は拡大が続いており、農業農村部の発表によると、2019年1月14日までの発生は25省・市・自治区に広がり、累計殺処分頭数は豚とイノシシを合わせて91万頭を超えています。

ベトナムでは、2019年2月1日に北部のフンイエン省の村で最初の疑い頭数117頭、死亡3頭が発生しました。続いて2月12日にタイビン省で疑い頭数241頭、死亡50頭、2月17日にフンイエン省で疑い頭数1,671頭、死亡50頭が発生しました。国連食糧農業機関 (FAO) の5月2日付けの報告によると、2019年2月19日のベトナム政府による正式発表以降、合計24の都市/地域において発生があり、89,600頭以上の豚が摘発・淘汰されています。



以下にベトナム現地より得られた情報を簡単に紹介しますが、政府の公式な発表ではないことをご了承の上お読みください。ベトナム国内では北部を中心に発生が拡大しており、現在は中心部での発生も見られています。今のところ南部では発生していません。発生農場としては、小規模農家だけではなくインテ農場*を含むあらゆる規模の農家で発生が確認されています。特徴的な臨床症状としては高熱を発症し、高い致死率を示しています。感染豚は埋却処理していますが、感染豚から出る血液や体液などで土壌および地下水が汚染されており、これによる周辺地域への汚染拡大が懸念されています。さらに、地下水の汚染が原因で豚の飲み水にも汚染が拡大しており、豚の飲水中からASFVが検出されているようです。餌からの汚染も懸念されており、ウェットタイプからドライタイプに変更すると共に、加熱処理にてウイルスの不活化を行う農家も出てきています。ヨーロッパ等では感染豚は焼却や専門の処理機械 (addField社やINCINER8社(共に英国、英語サイトのみ)から家畜用の焼却炉が販売されており、日本でも(株)ケマドローラから類似の家畜用焼却炉が販売されています)にて加熱処理し、ウイルスを完全に不活化しています。ベトナムで行われている埋却処理では上記の感染拡大が問題となっているため、ヨーロッパで用いられている加熱できる処理機械の導入を検討しているようです。今後は、ASFの撲滅に成功したスペインに倣って、ベトナムでも同様の取り組みを行っていくとのことでした。ASFに対する弱毒生ワクチンや不活化ワクチンに関する情報も得られましたが、安全性が担保されておらず、有効性についても不確実な内容であったため本稿への記載は控えさせていただきます。(N.T.)

*：インテグレーションとは、直営農場を経営したり、販売も大手スーパーと販売契約するなど、生産、解体、販売の各段階の一部または全部を同一資本が系列化し統合することを指します。また、インテグレーションを行っている会社、法人などをインテグレーターと呼んでいます。